

「子供の持ち味を最大限に生かす」学校づくりを目指す

そのために、「思い込み」を見直し、指導内容の絞り込み（焦点化）・具体的な取組内容（視覚化）・家庭との連携（共有化）を重視し、「できるまでする」校内体制で臨む。

また、「対話のある学び部」と「健やかな体づくり部」の指導体制による検証可能な指導で、多様な考えを引き出す（拡散）指導とまとめ生かす（収束）指導の組み合わせによる思考力の向上を図る。

★子供に身に付けさせたい力は「多様な考えを受け止め、置き換える力」

対話を通して、「意見と理由のつながりをつかみながら、複数の考えを受け止める（否定しない）」「具体的な例を出したり、別の言葉でまとめたりする（置き換える）」ことができる指導を進める。

各教科等で身に付けた力を発揮する学習の場として、生活科と総合的な学習の時間の指導計画に、「ふるさと・須田」学習（須田dy科）を全学年で設定する。この学習を通して、「地域の先人や周りの人たちから知恵を学ぶと共に、よりよい幸せな未来を作りあげるためにできることを地域に発信」し、感謝の気持ちを培う

健やかな体づくり

体幹力を育む

取組 運動の日常化を進めます
 学校生活や体育授業への基本運動の組み込み
 ・グーパー体操(朝と帰りの会)
 ・ボール投げ、ケンケンパ運動
 (体育授業と休み時間)
基本運動 「るるぶる」運動
 握る/投げる/跳ぶ/曲げる
 ※体力テスト結果から重点化
 全校体力向上【がんばりタイム】の実施
目標 運動能力を高め、進んで運動する子供

時間編集力を育む

取組 時間の可視化を進めます
 帰宅後のスキマ時間の使い方に各種指導を組み合わせる
 ・家庭読書(図書指導)
 ・家庭学習(学習指導)
 ・メディア時間の管理(保健指導)
 ・夜の歯磨きの徹底(家庭と連携)
重点活動 スキマ時間の活用
 復習する/読む/楽しむ/磨く
 ※生活習慣実態結果から重点化
 小中連携【元気アップ】の実施
目標 見通しをもって時間を使い健康な生活をする子供



地域を愛する心を育む

取組 「ふるさと・須田」のよさを知り、楽しんだり、役に立つことをしたりする学習を進めます
 各教科学習で学んだことを生かし発展させる学習を全学年で実施
 ・「ふるさと・須田」学習(須田dy科)
 ・地域奉仕活動(小中連携)
目標 地域から学んだことをこれからの自分や地域に生かす子供

対話のある学び

対話力を育む

取組 連続する対話力を育てます
 考えを「補い合う」・「整理する」対話スキルの活用場面の位置付け
 ・授業のめあての明示
 ・対話スキルの段階的な指導
 (教師と子供→子供同士)
対話スキル 言葉で関わる力
 根拠/例示/一般化
 ※学習指導要領から焦点化
 多様な考えをつなぎ、まとめ生かす(収束)授業改善を進めます
 ・自分の考えを可視化する思考ツール(カード等)の活用
 ・教科の特性に応じ指導マニュアルの作成活用(分類する・比較する)
目標 相手の考えを受け止め、複数の根拠で考えを深める子供

基礎学力を育む

取組 活用する力の育成を進めます
 学年に関係なく既に学んだことを組み合わせ、自力で問題を解決する活動を授業に位置付け
 ・教科書の課題を活用した発展問題(算数/理科)
 ・複数の根拠で考えをまとめる活動(国語/社会)
 圧倒的な読書量を確保する指導(多読・再読指導)
目標 身に付けた知識や考え方を組み合わせ、問題を解き進める子供

●「ひと」環境の整備

- ・「須田の人材」(人材データ) : 地域人材や地域学習の学習指導計画への位置付け(生活、社会、総合学習等)
- ・「須田小アンテナ」(人間関係指導指針) : 「成長課題をつかむ」「対話で社会性をはぐくむ」指導の徹底
- ・「えがおでぺこり」(全校交通安全運動) :
- ・「相手への思いやり(感謝)」と「安全確認の心(余裕)」の安全指導
- ・天候状況に合わせた具体的な対応指導

「ひと・もの・こと」
教育環境の整備

●「もの」環境の整備

- ・須田小「本の海」図書館の整備
- ・体力向上スペースの改善(ボール投げ、ケンケンパ、サーキットコース)
- ・「ピオトープ」(自然観察スペース)の整備(生活科、理科学習での活用)

●「こと」環境の整備

- ・「ふるさと・須田」学習(須田dy科)
 (各教科学習と生活科や総合的な学習の時間との関連した学習)
 === 学習テーマ等 ===
 1年: だいすき すだたんけん
 2年: 須田すてき たんけんたい
 3年: 宣伝します! 須田ブランド梨
 4年: 須田を豊かに! 信濃川とともに
 5年: 発信! これからの須田米づくり
 6年: 対話の力! 加茂軍議から知恵探し